



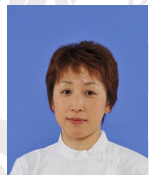
Title	北里大学東洋医学総合研究所：日本の伝統医学「漢方」を通じたWHOへの貢献
Author(s)	若杉, 安希乃; 関根, 麻理子; 小田口, 浩
Citation	目で見るWHO. 2019, 70, p. 18-19
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86566
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

北里大学東洋医学総合研究所 ～日本の伝統医学「漢方」を通じたWHOへの貢献～



北里大学東洋医学総合研究所
WHO伝統医学協力センター

若杉 安希乃

2007年北里大学大学院医療系研究科博士課程修了。
現在、北里大学東洋医学総合研究所 EBMセンター室長。

共著者：関根 麻理子 / 小田口 浩

北里大学東洋医学総合研究所の概要

北里大学東洋医学総合研究所 (Oriental Medicine Research Center) (写真①) は 1972 年に日本で最初の漢方医学 (漢方薬や鍼灸による治療を中心とした日本の伝統医学) の総合的な研究機関として設立されました。「漢方鍼灸治療センター」「研究部門」「教育部門」「臨床試験部門」「国際部門」「事務部門」からなり、本来の漢方医学をきちんと継承し、発展させることを目指して日々精進しております。対外的には、国内の漢方医学関連学術機関と共同した研究活動、日本東洋医学会・全日本鍼灸学会・和漢医薬学会など漢方関連学会における活動、関連企業と連携した産学プロジェクトなど、漢方医学の普及や発展につながる様々な活動を行っております。また国際的にも、海外の伝統医学研究機関と連携協定を結び、国際的な漢方関連学会にも積極的に参加す



写真①. 施設の外觀

るなど、世界を視野に入れた活動も行っております。

WHO 協力センターとしての役割

北里大学東洋医学総合研究所は、1986 年に我が国初の WHO 伝統医学協力センターに指定され、現在に至るまで指定が継続されております。国内で WHO 伝統医学協力センターに指定されているのは、北里大学東洋医学総合研究所と富山大学医学部和漢診療学講座の計 2 施設です。国内外研究者の教育と情報交換、漢方薬や鍼灸の有用性の評価や品質管理方法の確立、漢方薬や鍼灸の作用機序の解明、医史学研究の実施等を通じて、国内のみでなく世界の伝統医学の発展に貢献できるよう、努力しております。

伝統医療分野における医療安全情報の収集

北里大学東洋医学総合研究所は漢方医学の中核をなす漢方薬医療と鍼灸医療の双方に携わっていることから、伝統医療の安全な提供方法に関する情報を収集し、提供することが WHO への貢献の一つと考えております。

そこで、一般社団法人日本東洋医学会の医療安全委員会と協力して、漢方領域におけるインシデント・アクシデント事例の情報を試験的に収集・解析する活動を 2019 年より開始いたしました。次の段階ではより大規模な調査を行い、伝

統医学特有の医療安全ガイドライン作成に役立つ情報を提供したいと考えております。

漢方医療の標準化を目指すプロジェクト

漢方診療においては、問診・舌診・脈診・腹診など五感を使って把握した所見を、陰陽・虚実・気血水など、漢方医学独自の理論を用いて評価し、最終的に適切な漢方方剤を決定しますが、伝統医学に内在する制約のため、診療過程の可視化、標準化が大きな課題となっております。我々は WHO 伝統医学協力センターに指定されている富山大学をはじめ、自治医科大学、千葉大学、東海大学、福島県立医科大学の漢方医療専門家と共同し、「漢方診療標準化プロジェクト」を実施しております。プロジェクトの内容は、通常の漢方診療過程から得られるデータを解析し、患者様から採取した漢方医学的所見と漢方方剤の組み合わせが病態にどのような効果をもたらすか、安全性に問題は生じないか、という点を検証することで漢方診療過程を可視化、標準化するものです。これまでに各種研修会・シンポジウムも開催しました (写真②)。漢方診療の骨格部分が標準化されることで、漢方診療の安定化が図られ、漢方研究の礎が作られ、さらに漢方医学教育の標準化も図られるなど、漢方医療を用いた健康管理に多大なメリットが生まれると考えられます。この手法は他の伝統医学にも応用可能であり、WHO の求める課



②診察手合わせ会を開催 (2016.11.20) ③日韓 WHO 伝統医学協力センターシンポジウム開催 (2017.6.16) ④タイ タラン県看護大学からの見学者 (2014.4.11) ⑤北里大学・富山大学・WPRO 協議会 (2015.9.5) ⑥ Dr.Zhang Qi, Dr.AHN Sangyoung が来訪 (2016.10.6) ⑦ 4th Hospital Quality and Patient Safety Management Course (2017.3.22) ⑧第 70 回日本東洋医学会学術総会の準備委員



題の一つである伝統医療の標準化に資するものと考えております。

日韓 WHO 伝統医学協力センターとの連携

日韓の 5 つの WHO 伝統医学協力センターは、2010 年に研究協力協定を結びました。5 つの伝統医学協力センターの内訳は、日本側は北里大学東洋医学総合研究所と富山大学和漢診療学講座の 2 施設と韓国側は国立ソウル大学、キョンヒ大学、韓国韓医学研究院の 3 施設です。2012 年に北里大学、2013 年にソウル大学、2015 年に富山大学とキョンヒ大学、2016 年に韓国韓医学研究院、2017 年に北里大学 (写真③)、2018 年に韓国韓医学研究院というように持ち回りで国際シンポジウムを開催しています。今後も引き続き、日韓両伝統医学の利点を補い合うことを目的に連携を強化していく予定であります (なお、国立ソウル大学は現在 WHO 伝統医学協力センターから外れています)。

国際交流活動の活性化

北里大学東洋医学総合研究所には、海外からの多くの訪問者を積極的に受け入れています (写真④、⑤、⑥、⑦)。2007 年 4 月～2019 年 7 月までの見

学受け入れ総回数は 103 回であり、見学者総数は 543 名でありました。受け入れ国上位 10 国のリストを表に示します。見学プログラムの内容は、北里大学東洋医学総合研究所の紹介 DVD の上映 (英語版・中国語版・韓国語版あり)、資料展示室・薬局の見学・質疑応答等です。近年は、通訳者を同行するケースが増えて、充実した議論が行われるようになっております。(表右)

第 70 回日本東洋医学会学術総会の開催

2019 年 6 月 28 日～6 月 30 日、北里大学東洋医学総合研究所の花輪壽彦名誉所長を会頭として、新宿の京王プラザホテルにおいて第 70 回日本東洋医学会学術総会が開催されました (写真⑧)。本学術総会では、WHO の Dr. Zhang Qi (Coordinator of Traditional, Complementary and Integrative Medicine Unit, Department of Service Delivery and Safety) に “Implementation of WHO TM strategy 2014-2023” のタイトルで記念講演をいただきました。その他、前述の一般社団法人日本東洋医学会の医療安全委員会による「漢方薬の副作用に関するシンポジウム」や、同じく前述の診療標準化プ

表. 2007 年 4 月～2019 年 7 月
海外からの来訪状況

	来訪人数 (人)	来訪回数 (回)
韓国	142	22
中国	136	20
タイ	116	7
アメリカ	53	23
ベトナム	22	5
ロシア	20	1
モンゴル	16	3
アラブ首長国連邦	6	1
ドイツ	5	5
カンボジア	4	1
他	23	15
計	543	103

ロジェクトによる「標準化シンポジウム」といった、WHO 活動に関連するプログラムも実施されました。

ICD に導入される伝統医学

WHO から勧告される国際疾病分類の第 11 版 (ICD-11) に「伝統医学」の章が初めて導入されることになりました。中国古代医学を源流にするという共通点を有しながらも現在では診断方法が異なっている日本、中国、韓国の伝統医学を一つの章にまとめるには大きな努力を要しましたが、当施設も関与して成果をあげることができたことは大きな喜びです。これを機に、今後は、国際的にも「伝統医学」が益々注目されるようになることを期待しております。